

西苑園林における扁額からみた建築群機能類型別の庭園空間特徴

The Spatial Feature of Architecture Group in Xiyuan Garden from the Aspect of Horizontal Tablet

蘇 暢*・馬 嘉**・章 俊華*

Chang SU, Jia MA and Junhua ZHANG

要旨:本研究は、中国皇家庭園西苑園林を対象とし、西苑園林における建築群の配置と機能を定義付け、4つの機能に分類された。また、建築群にある「扁額」の意味を解析し、クラスター分析によって3つのグループに分類する。本研究より以下のことが明らかとなった。4つの機能別の庭園空間において、各グループの扁額の構成比がそれぞれ異なっており、庭園空間特徴と深く関連性が見られる。宗教祭祀、居住修身、遊覧休憩、政治式典の庭園空間には、各グループに属する扁額が異なっている構成比をもち、多様な分布様態も見える。「扁額」の意味である意境¹⁾は建築群の庭園空間特徴と呼応し、強調し合うという特徴が存在する。

キーワード: 西苑園林、建築群、機能、扁額の意味、庭園空間特徴

Abstract: This study verify the characteristics of Empress owned Garden 「Xiyuan garden」 by defining the space arrangement and function of the architecture groups and analyzing the meaning of 「Horizontal tablets」. The architectural groups in 「Xiyuan garden」 were categorized by function into four groups. The study carried out the cluster analysis using the data of meaning in Horizontal tablets and made the deep discussion. As a result, The Horizontal tables are divided into 3 groups and Each function group of architecture group have the special ratio. Also, the Different group of Horizontal has the different ratio and spatial distribution characteristics in different types of Architecture groups. The finding in the study show that understating of the Horizontal tables help study the feature of Garden space characteristics in architecture groups by digging deeper traditional garden space meaning.

Key Words: empress garden, Xiyuan Garden, Architecture Group, function, meaning of Horizontal tablets, Garden space feature characteristics

はじめに

西苑園林は西暦 938 年に建設が開始され、遼、金、元、明、清の 5 つの時代(約 700 年間)で建設され続け、そして清時代における北京皇城の一番広い皇家庭園となった(周, 1991)。西苑園林は、中国における皇家御苑の傑作と評価される(田治, 1959)。清の乾隆時代(1736-1796)に、乾隆帝は豊かな国力を基盤とし、西苑園林を造営し、それ以降の基盤を固めた(田治, 1959; 周, 1991)。西苑園林は建築群を基本単位とし、庭園空間と機能を明確に区別した。建築群は、囲む、限定するなどの手法を用いて、一定の範囲内に多様な庭園空間²⁾を作り出し、建築群は園内の生活、遊覧、政治式典などさまざまな需要を満たした(周, 1991)。建築群は各々別の機能をもち、庭園空間もそれに伴いさまざまな特徴を形成した(彭, 1986)。

西苑園林は中国古来の造園手法である扁額により、庭園を区分けし、建築の主題、機能などを強調した(李, 2013)。また、建築群および建築単体の名称を付け、個人の理想、趣味などを伝えることもでき、「意境」¹⁾を形成した(周, 1991)。西苑園林は建築群の扁額意味において、庭園空間と意境空間結びつける架け橋になっている。西苑園林における庭園空間特徴を研究するため、西苑園林における扁額の意味を理解することは不可欠だと考えられる。

既往研究³⁾では、中国古代皇家庭園における建築群の配置の研究は十分になされている。扁額に関する既往研究では、谷(2008)は庭園扁額の意味と空間の関係を研究した。章(1999)、咸(2012)、王(2014)は扁額を研究対象とし、庭園空間特徴についてを考察した。西苑園林における建築群の空間配置に関する既往研究において、梁(1999)は「西苑園林の建築は建築群を基本単位として構成する。」と述べているのみで、ほかの研究は見当たらない。そして、建築群と

* 千葉大学大学院園芸学研究所

** 北京林業大学園林学院

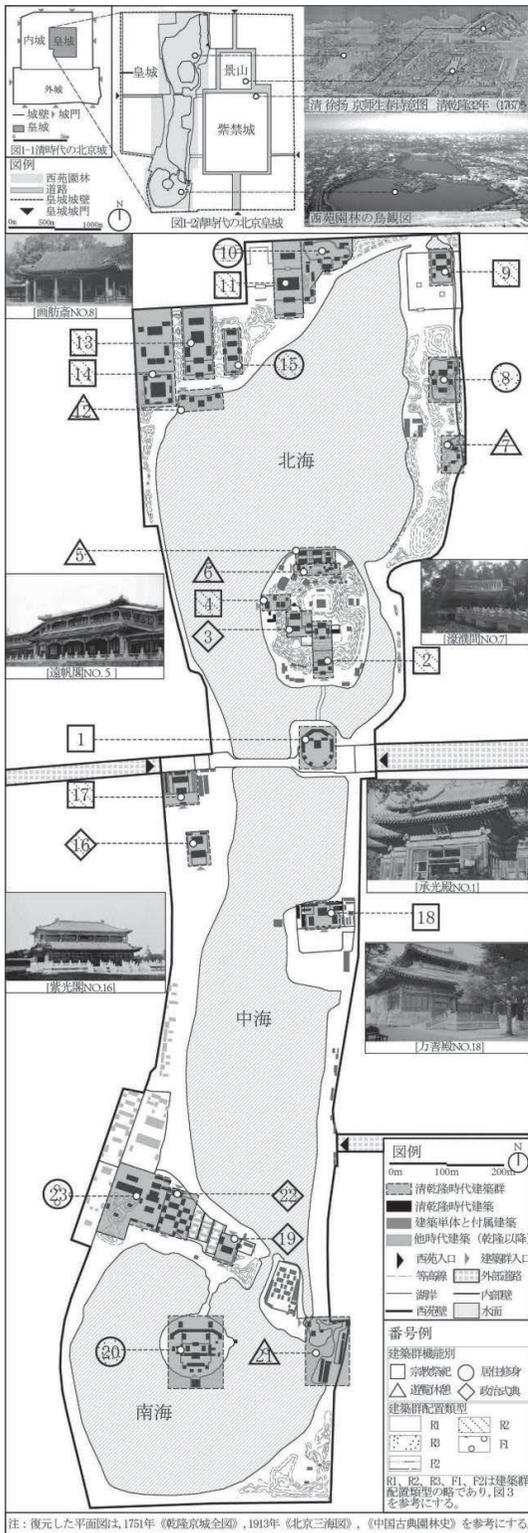


図1 西苑園林の位置と平面図

扁額の関連性の研究はない。そのため、本研究では、西苑園林における建築群の扁額を研究対象とし、扁額の意味と建築群における庭園空間特徴の関連性を明らかにすることを目的とする。また西苑園林における庭園文化の考察を行い、中国古代庭園の文化研究を補充する。

1. 研究対象と研究方法

1.1 研究対象

西苑園林は清時代における皇城の中に位置し、北海、中海、南海という3つの部分に分けられている。南北の距離は2.5km、東西は平均0.5km、面積は約166haである(図1)(佐藤, 1991; 周, 1991)。西苑園林は、乾隆時代に最大規模の建築工事が行われ、乾隆時代以降は大きな建築群の新規造作はなく、主に修復工事が行われていた。そのため、本研究は清の乾隆時代における西苑園林を研究対象とし、23カ所の建築群の具体的な内容を研究する(図1)。

本研究では、文献資料⁴⁾に記載された西苑園林の「扁額」と「対聯」440通を確認し、そのうち乾隆時代における扁額は250通である。建築群外部の単体建築に属する扁額92通を除く、各建築群内部における158通の扁額を研究対象にする(表1)。

1.2 研究方法

本研究では、2015年5月、2016年4月と6月の合計3回の現地調査を通じ、西苑園林における建築群および扁額の保存状況を把握する。また、現地調査の結果と文献資料⁵⁾に基づき、対象地における建築群および扁額の分布状況を明らかにする(図1)。さらに、周(1991)、張(2016)、高(2010)の既往研究により、建築群の空間配置と機能を確認しており、扁額の意味を整理し、クラスター分析を行う。最後に、扁額意味の分類結果に基づき、各機能別の建築群における庭園空間の特徴を考察する。

2. 建築群機能類型の分類

中国古代皇家園林における建築の基本配置形式は、対称式(R)と自由式(F)の2種類がある(図2)(佐藤, 1991; 李, 1990)。西苑園林における建築群はこの2種類の形式を基本的な骨格とし、それぞれに異なる23カ所の庭園空間が形成されている。西苑園林には、対称式(R)建築配置が三合院式を原型とし3種類を構成し、自由式(F)の2種類と共に、合計で5種類の建築群配置類型がある(図2)。

本研究では張(2016)、王(2013)、高(2010)の既往研究から中国古代庭園建築単体および建築群機能の分類根拠と

表 1 扁額内容およびグループ分類

分類	建築名	H-NO	匾額名	扁額意味	グループ	建築名	H-NO	匾額名	扁額意味	グループ	建築名	H-NO	匾額名	扁額意味	グループ	建築名	H-NO	匾額名	扁額意味	グループ
1 R1 宗教	承光殿	1	永光殿	知,自	A	遺徳殿	40	聖徳	自,詩	A	極楽世界	80	極楽世界	宗,神	C	漱清院	124	漱清院	政,自	C
	永光殿	2	願願風清	知,自	C	崇徳堂	41	崇徳	知,神	C	極楽世界	81	極楽世界	宗,自	B	漱清院	125	永光堂	政,自	A
	古鶴堂	3	古鶴堂	知,自	C	徳機園	42	徳機園	知,政	C	萬仏樓	82	慈徳信香	宗,自	B	漱清院	126	徳機園	自,詩	A
	余清堂	4	余清堂	知,自	C	徳機園	43	徳中石	知,自,詩	A	萬仏樓	83	大千輪廻	宗,自	B	漱清院	127	徳機園	宗,知	C
	余清堂	5	余清堂	知,自	A	徳機園	44	善法林徳	自,詩	A	萬仏樓	84	彌陀蓮華	宗,自	B	漱清院	128	徳機園	知,自	C
	法輪殿	6	法輪殿	宗,自	B	徳機園	45	動静交養	備,知	C	萬仏樓	85	彌陀蓮華	宗,自	B	漱清院	129	徳機園	神,自	C
	法輪殿	7	人天演佛	宗,自	B	徳機園	46	善法堂	自,詩	A	萬仏樓	86	現大吉祥	宗,自	B	漱清院	130	徳機園	自,詩	A
	平安殿	8	慈雲堂	宗,政	C	徳機園	47	竹風桂月	自,詩	A	萬仏樓	87	徳性堂	知,政	C	漱清院	131	徳機園	自,詩	A
	平安殿	9	慈雲堂	宗,政	C	徳機園	48	鏡香室	自,詩	A	萬仏樓	88	徳性堂	知,政	C	漱清院	132	徳機園	備,知	C
	平安殿	10	慧根園	知,自	B	徳機園	49	古柯亭	自,詩	A	萬仏樓	89	徳性堂	知,政	C	漱清院	133	徳機園	神,自	C
2 R2 宗教	永光殿	11	如如不動	宗,知	B	徳機園	50	徳真徳	自,詩	A	萬仏樓	90	徳性堂	知,政	C	漱清院	134	徳機園	知,自	A
	永光殿	12	宗壇殿	宗,自	B	徳機園	51	善法堂	自,詩	A	萬仏樓	91	清約池	知,政	C	漱清院	135	徳機園	自,詩	A
	悦心殿	13	悦心殿	知,政	C	徳機園	52	徳真徳	知,政	C	萬仏樓	92	妙妙亭	宗,知	C	漱清院	136	徳機園	自,詩	A
	悦心殿	14	悦心殿	知,政	C	徳機園	53	先皇塚	知,政	C	萬仏樓	93	徳真徳	知,政	C	漱清院	137	徳機園	自,詩	A
	悦心殿	15	慶雲楼	知,政	C	徳機園	54	徳真徳	知,政	C	萬仏樓	94	徳真徳	知,政	C	漱清院	138	徳機園	自,詩	A
	悦心殿	16	静照軒	知,政	C	徳機園	55	徳真徳	知,政	C	萬仏樓	95	徳真徳	知,政	C	漱清院	139	徳機園	自,詩	A
	悦心殿	17	瑞光殿	宗,自,詩	A	徳機園	56	不為物先	備,知,政	C	萬仏樓	96	徳真徳	知,政	C	漱清院	140	徳機園	仁,自	A
	悦心殿	18	甘露殿	宗,自	B	徳機園	57	徳真徳	知,政	C	萬仏樓	97	玉蘭軒	自,詩	A	漱清院	141	徳機園	自,詩	A
	悦心殿	19	甘露殿	宗,自	B	徳機園	58	徳真徳	知,政	C	萬仏樓	98	徳真徳	自,詩	A	漱清院	142	徳機園	自,詩	A
	悦心殿	20	永光殿	宗,自	B	徳機園	59	徳真徳	自,詩	A	萬仏樓	99	徳真徳	自,詩	A	漱清院	143	徳機園	自,詩	A
3 R3 政治	悦心殿	21	瑞光殿	宗,自,詩	A	徳機園	60	徳真徳	自,詩	A	萬仏樓	100	徳真徳	自,詩	A	漱清院	144	徳機園	知,仁,政	C
	悦心殿	22	瑞光殿	宗,自,詩	A	徳機園	61	徳真徳	自,詩	A	萬仏樓	101	徳真徳	自,詩	A	漱清院	145	徳機園	知,仁,政	C
	悦心殿	23	瑞光殿	宗,自,詩	A	徳機園	62	徳真徳	自,詩	A	萬仏樓	102	徳真徳	自,詩	A	漱清院	146	徳機園	知,仁,政	C
	悦心殿	24	瑞光殿	宗,自,詩	A	徳機園	63	徳真徳	自,詩	A	萬仏樓	103	徳真徳	自,詩	A	漱清院	147	徳機園	知,仁,政	C
	悦心殿	25	瑞光殿	宗,自,詩	A	徳機園	64	徳真徳	自,詩	A	萬仏樓	104	徳真徳	自,詩	A	漱清院	148	徳機園	知,仁,政	C
	悦心殿	26	瑞光殿	宗,自,詩	A	徳機園	65	徳真徳	自,詩	A	萬仏樓	105	徳真徳	自,詩	A	漱清院	149	徳機園	知,仁,政	C
	悦心殿	27	瑞光殿	宗,自,詩	A	徳機園	66	徳真徳	自,詩	A	萬仏樓	106	徳真徳	自,詩	A	漱清院	150	徳機園	知,仁,政	C
	悦心殿	28	瑞光殿	宗,自,詩	A	徳機園	67	徳真徳	自,詩	A	萬仏樓	107	徳真徳	自,詩	A	漱清院	151	徳機園	知,仁,政	C
	悦心殿	29	瑞光殿	宗,自,詩	A	徳機園	68	徳真徳	自,詩	A	萬仏樓	108	徳真徳	自,詩	A	漱清院	152	徳機園	知,仁,政	C
	悦心殿	30	瑞光殿	宗,自,詩	A	徳機園	69	徳真徳	自,詩	A	萬仏樓	109	徳真徳	自,詩	A	漱清院	153	徳機園	知,仁,政	C
4 R4 宗教	悦心殿	31	瑞光殿	宗,自,詩	A	徳機園	70	徳真徳	自,詩	A	萬仏樓	110	徳真徳	自,詩	A	漱清院	154	徳機園	知,仁,政	C
	悦心殿	32	瑞光殿	宗,自,詩	A	徳機園	71	徳真徳	自,詩	A	萬仏樓	111	徳真徳	自,詩	A	漱清院	155	徳機園	知,仁,政	C
	悦心殿	33	瑞光殿	宗,自,詩	A	徳機園	72	徳真徳	自,詩	A	萬仏樓	112	徳真徳	自,詩	A	漱清院	156	徳機園	知,仁,政	C
	悦心殿	34	瑞光殿	宗,自,詩	A	徳機園	73	徳真徳	自,詩	A	萬仏樓	113	徳真徳	自,詩	A	漱清院	157	徳機園	知,仁,政	C
	悦心殿	35	瑞光殿	宗,自,詩	A	徳機園	74	徳真徳	自,詩	A	萬仏樓	114	徳真徳	自,詩	A	漱清院	158	徳機園	知,仁,政	C
	悦心殿	36	瑞光殿	宗,自,詩	A	徳機園	75	徳真徳	自,詩	A	萬仏樓	115	徳真徳	自,詩	A	漱清院	159	徳機園	知,仁,政	C
	悦心殿	37	瑞光殿	宗,自,詩	A	徳機園	76	徳真徳	自,詩	A	萬仏樓	116	徳真徳	自,詩	A	漱清院	160	徳機園	知,仁,政	C
	悦心殿	38	瑞光殿	宗,自,詩	A	徳機園	77	徳真徳	自,詩	A	萬仏樓	117	徳真徳	自,詩	A	漱清院	161	徳機園	知,仁,政	C
	悦心殿	39	瑞光殿	宗,自,詩	A	徳機園	78	徳真徳	自,詩	A	萬仏樓	118	徳真徳	自,詩	A	漱清院	162	徳機園	知,仁,政	C
	悦心殿	40	瑞光殿	宗,自,詩	A	徳機園	79	徳真徳	自,詩	A	萬仏樓	119	徳真徳	自,詩	A	漱清院	163	徳機園	知,仁,政	C

注: G-NOは建築群の番号と建築群の配置形態である。R1、R2、R3、F1、F2は図2を参照する。H-NOは扁額の番号である。建築群の機能は、宗教祭祀・居住修身・遊覧休憩・政治式典の順である。
*宗・宗教儀・儒学・知・行・徳・権・力・仁・政・政治・政治知恵・自・自然物・詩・詩画・自然・神・神仏・自然
*建築群の詳号は、参考文献に記載された建築群の名前があるいは建築群の中心となる建築の名前を命名する。



注: 写真1-「人天演佛」(NO.2)、写真2-「慈雲堂海」(NO.8)、写真3-「願願風清」(NO.46)、写真4-「鏡香室」(NO.48)、写真5-「不為物先」(NO.56)、写真6-「徳素書屋」(NO.57)、写真7-「祝勝亭」(NO.61)、写真8-「徳機軒」(NO.62)、写真9-「徳茶場」(NO.63)、写真10-「極楽世界」(NO.80)

李(2013)の西苑園林内建築群の機能についての論述により、西苑園林23カ所の建築群を整理し、宗教祭祀、居住修身、遊覧休憩、政治式典の4つに分類する。

2. 1 宗教祭祀類建築群

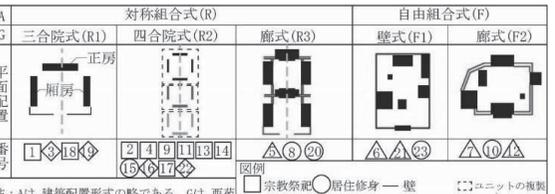
宗教祭祀類建築群は合計9カ所であり、それらは仏教、参禅などの宗教に関する活動空間である。建築の配置は、すべて対称式(R)で構成される。そのうち、三合院式(R1)が2カ所と四合院式(R2)が7カ所存在する(図1, 2)。

2. 2 居住修身類建築群

居住修身類建築群は合計5カ所であり、それらは居住、読書、習字などの活動空間である。建築の配置は、対称式(R)と自由式(F)はほぼ同数であり、そのうち、対称四合院式(R2)が1カ所、対称廊式(R3)が2カ所、自由壁式(F1)が1カ所、自由廊式(F2)が1カ所存在する(図1, 2)。

2. 3 遊覧休憩類建築群

遊覧休憩類建築群は合計5カ所であり、それらは遊覧、休憩などの活動空間である。建築の配置は、自由式(F)が多い。



注: Aは、建築配置形式の略である。Gは、西苑園林における建築群の配置類型の略である。図例: □ 宗教祭祀 ○ 居住修身 = 壁 □ □ ニックの重複

図2 建築群の配置と機能

そのうち、自由壁式(F1)が2カ所、自由廊式(F2)2カ所、そして対称廊式(R3)の1カ所が存在する(図1, 2)。

2. 4 政治式典類建築群

政治式典類建築群は合計4カ所であり、それらは日常的な政治と式典に関する活動空間である。建築の配置は、すべて対称式(R)で構成され、そのうち、三合院式(R1)2カ所、対称四合院式(R2)2カ所存在する(図1, 2)。

3. 扁額意味の分類と扁額のグループ化

3. 1 扁額意味の分類

本研究では、章(1999)、咸(2012)、王(2014)の既往研究における扁額意味の分類根拠と李(2013)の西苑園林における扁額意味の説明分析に基づき、西苑園林における扁額意味の内容を整理し、宗教、儒学、知行⁶⁾、権力、仁政、政治知恵、自然物、詩画⁷⁾、神話自然⁸⁾の合わせて9カテゴリーに分類する(表1)。

3. 2 扁額のグループ化

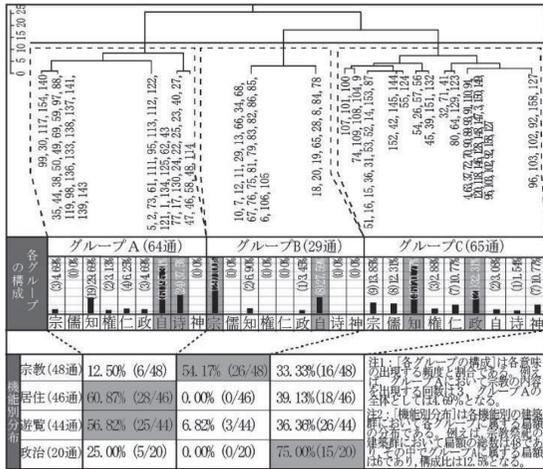
李(2013)の扁額の解説に基づき、158通の扁額を整理し、扁額の由来である詩文や扁額の内容などの意味を抽出したうえで(表2)、SPSS22.0を利用し、クラスター分析(Ward法と平方ユークリッド距離)によって類型化する。一定している範囲内にグループの特徴がよく現れるようになることを基準とし、3つのグループが得られる(表3)(下記「グループ」は「G」と略称する)。

表 2 扁額の意味を抽出する過程

扁額名	扁額の意味	意味の抽出
NO.22 湖天浮玉 (白、静)	湖天 浮玉 「傳代の詩文「蘭峰浮室」蘭峰蘭室、定基蘭寒地、 水面を玉に比喩する内容を扁額に引用する。」 「湖天の色が水面に映える」という意を抽出	「湖天自然」 「自然物」

注：表1において扁額の意味を抽出する方法は以上の例によって行う。

表 3 クラスタ分析結果と建築群機能別分布



GA に属する扁額は総計 64 通であり、自然物、詩画自然、知行、仁政などの総合的な内容を反映している。各意味に対する要素の出現する回数と割合から見ると、「神話を除く自然および知行中心」は GA に属する扁額の顕著な特徴と言える (表 3)。

GB に属する扁額は総計 29 通であり、宗教、自然物、知行、政治知恵の内容を反映している。各意味に対する要素の出現する回数と割合から見ると、「宗教および自然物中心」は GB に属する扁額の顕著な特徴と言える (表 3)。

GC に属する扁額は総計 65 通であり、知行、政治知恵、宗教、儒学などの総合的な内容を反映している。各意味の要素の出現する回数と割合から見ると、「知行および政治知恵中心」は GC に属する扁額の顕著な特徴と言える (表 3)。

4. 扁額からみた建築群機能類型別の庭園空間特徴

西苑園林における建築群は、中国古代庭園における建築群の配置形式に基づき、基本的な骨格として配置されており、それぞれの建築群も各類型の機能をもち、多様な庭園空間を形成している。そのため、前述のクラスタ分析の結果により、各機能を持つ建築群の扁額からみた庭園空間を分析し、庭園空間特徴を考察する。

4.1 宗教祭祀類建築群の庭園空間特徴

西苑園林における宗教祭祀類建築群は 9 か所であり、主に対称組合式の四合院式 (R2) で配置され、宗教に関する活

動を行う空間と参禅、休憩に関する付属空間が現れ、別々に設置されている。扁額は総計 48 通であり、GB に属する扁額は最も多く、54.27% (26/48) を占めている。GC は 33.3% (16/48) を占めており、GA は最も少なく、12.5% (6/48) を占めている (表 3)。

GB に属する扁額の分布から見ると、主に宗教に関する活動を行う空間に集中することがわかる。扁額は宗教の典籍に記載する故実や宗教思想に関する語彙で構成されている。例えば、[極楽世界 NO. 14] の「性海圓成」は、仏教用語を用いて世俗の真理を追求する意味を表現している。[永安寺 NO. 2] の「法輪殿」、「人天調御」、「慈雲賞海」は仏教用語を用いて衆生を教化する意味をもっている。また、[西天梵境 NO. 11] の「恒河演乘」「慈育万有」は衆生を済度し、生けるものを彼岸へ導くという内容を反映している。従って、宗教に関する活動を行う空間には、GB に属する扁額における宗教の要素を用い、神聖な意境を生み出していると考えられる。

GC に属する扁額の分布から見ると、主に参禅、休憩に関する付属空間に集中することがわかる。扁額は主に行為、思想の基準や自省の意味をもっている。例えば、[極楽世界 NO. 14] の「澹吟室」、「清約池」、「澄性堂」、「至爽楼」、「妙相亭」は、自らを観察し反省する意味を表現している。[永安寺 NO. 2] の「普安殿」は仏法を通じて天下泰平と祈禱する意味を表現している。従って、参禅、休憩などの付属空間には、GC に属する扁額における知行、政治知恵の要素を用い、皇帝の自身に対する行為と天下に関する考えを反映していると思われる。

また、周辺の風景に呼应するや自然物を用いて宗教思想を伝える場合もあるため、少量の GA に属する扁額が存在する原因と考えられる。例えば、[琳光殿 NO. 4] の「琳光殿」は水面の光を宝石の光にたとえ、建築に対する自然風景と呼応している。[極楽世界 NO. 14] の「鏡藻軒」は水生植物で宗教空間の落ち着いた雰囲気を作り出している。

以上、宗教祭祀類の建築群において、宗教に関する活動を行う空間と休憩、参禅の付属空間は別々に配置されており、扁額も宗教、知行、自省の意味を含み、空間の用途に合わせていることがわかる。従って、扁額を通じて宗教祭祀の建築群の神聖な意境を作り出しているだけでなく、宗教に関連する教誨の内容を用いて皇帝の自省を表しているということが特徴として考えられる (図 3)。

4.2 居住修身類建築群の庭園空間特徴

西苑園林における居住修身類建築群は 5 か所であり、対称組合式 (R) と自由組合式 (F) で配置され、居住、休憩の生活空間と会談、読書、音楽や書道を練習するなどの修身活動を行う空間に分けられている。扁額は総計 46 通であり、GA に属する扁額は最も多く、60.87% (28/46) を占めてい

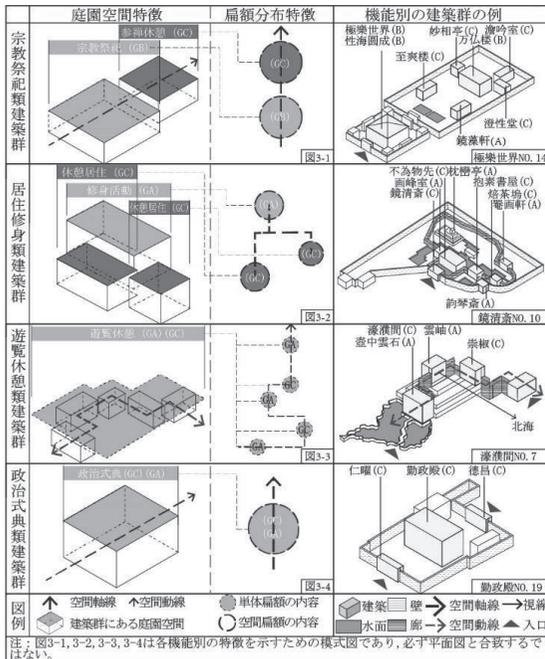


図3 扁額からみた庭園空間特徴の分析

る。GCは39.13%(16/46)を占めており、GBに属する扁額は存在しない(表3)。

GAに属する扁額の分布から見ると、主に修身活動を行う空間に集中することがわかる。扁額は庭園空間における自然風景の模写や伝統的な詩文や絵画にある自然のイメージなどの内容で構成されている。例えば、[鏡清齋 NO. 10]の「杖櫛亭」、「画峰室」、「電画軒」は古代の文人が大自然の姿を描写する経過を表現し、文人の自然に憧れる意境を表現している。[画舫齋 NO. 8]の「春雨林塘」、「竹風梧月」、「緑意廊」、「画舫齋」、「鏡香室」は、水面、雨、池、竹、アオギリなどの自然景物を用い、周辺の自然物に呼応しながら、詩や絵画にある文人の理想的な意境空間を形成している。従って、修身活動を行う空間には、GAに属する扁額における自然の要素を用い、実体の自然物と文人の大自然に対する憧れに繋げていると考えられる。

GCに属する扁額の分布から見ると、主に居住、休憩の生活空間に集中することがわかる。扁額は皇帝の行為や思想に対する規準で構成されている。[鏡清齋 NO. 10]の「鏡清齋」と「不為物先」は聖人の経典にある思想を用い、自らを観察し反省する意味を表現している。「抱素書屋」は閑寂な庭園空間に対応し、自照、清心、素朴という意味を表現している。[画舫齋 NO. 8]の「奥曠室」、「得真趣」は奥深い大自然と矮小な人間に対する考えを表現している。従って、居住、休憩の生活空間には、GCに属する扁額における知行や自省の要素を用い、居住空間の落ち着いた雰囲気を引き立していると考えられる。

以上、居住修身類の建築群において、修身活動を行う空間と居住、休憩の生活空間は分けられており、扁額も自然、知行、自省の意味をもち、空間に応じる雰囲気と調和しているという特徴を強調できる。従って、扁額を通じて皇帝の修身、自省および文人の自然に調和する生活への憧れを表現し、分割された庭園空間にさまざまな意境を形成しているということが特徴として考えられる(図3)。

4.3 遊覧休憩類建築群の庭園空間特徴

西苑園林における遊覧休憩類建築群は5か所であり、対称組合式(R)と自由組合式(F)所で配置され、建築単体が分散的に配置し、移動的な庭園空間が形成されている。扁額は総計44通であり、GAに属する扁額は最も多く、56.82%(25/44)を占めている。GCは36.36%(26/44)を占めており、GBに属する扁額は最も少なく、6.82%(3/48)を占めている(表3)。

GAに属する扁額の分布から見ると、建築群の内部および外部における自然物や視線に関連し、秩序なく分散的に配置されているという特徴がわかる。例えば、「濠濮間 NO. 7」の「壺中雲石」は神話にある自然観を用い、植物に囲まれた空間に対応し、静寂な雰囲気を生み出している。「雲岫」は「曇無心以出岫」という詩文から抽出し、築山によって造営された建築のよい視野に呼応している。「五龍亭 NO. 12」の「滋香」、「浮翠」および「碧照樓 NO. 5」の「碧照樓」、「湖天浮玉」は比喩の手法を用いて水の美しさを強調し、北海の景色を描写している。従って、GAに属する扁額における自然の要素を用い、遊覧、休憩を行う空間に対する自然要素と遊覧動線に繋げ、強調していると考えられる。

GCに属する扁額の分布から見ると、GAに属する扁額の分布と同様に、分散的な分布様態をもつという特徴がわかる。扁額は遊覧の途中に生み出した感想や自然観の考えで構成されている。例えば、「濠濮間 NO. 7」の「濠濮間」は「莊子 秋水」に記載された「濠濮間」という典故から抽出され、聖人の人間と自然に対する見解を引用し、皇帝の安らかな自然観の考えを表している。「五龍亭 NO. 12」の「湧祥」、「湧瑞」は、水のイメージを用い、吉兆が水から湧き出るという寓意を表現している。「龍澤」は、龍の形象により、皇帝の権威を強調している。従って、GCに属する扁額における知行の要素を用い、遊覧、休憩などの活動を行いながら、自然の風景に生み出している感想を表していると考えられる。また、自然物から連想される宗教に関する内容があることが、「蓮華室」「真如室」のようなGBに属する扁額が存在する原因と思われる。

以上、遊覧休憩類の建築群において、庭園空間は建築群の内部および外部の自然風景に関連し、園路や廊によって動線が形成している。このタイプの建築群には、居住修身類の建築群と似ている扁額の構成比が見えるが、空間の用途

に伴い集中する特徴がなく、扁額は分散的な状態で分布しており、周辺の自然物やよい視点場に対応している。従って、扁額を通じて眼前の自然を描写しながら、皇帝の自然観および世界観に対する連想を昇華しているということが特徴として考えられる(図3)。

4. 4 政治式典類建築群の庭園空間特徴

西苑園林における政治式典類建築群は4か所であり、対象組合三合院式(R1)と四合院式(R2)で配置され、建築物は軸線上に並び、厳粛な雰囲気を作り出している。扁額は総計20通であり、GCに属する扁額は最も高く、75%(15/20)を占めている。GAは25%(5/20)を占めており、GBに属する扁額は存在しない(表3)。

GCに属する扁額の分布から見ると、皇帝が政務を執る建築群に集中することがわかる。扁額は自身に対する励み、勧めおよび自省に関する内容で構成されている。例えば、[勤政殿NO.19]の「勤政」は皇帝の政治に勤勞すべきであるということを表している。「仁暉」と「昌徳」は帝政の盛徳を宣揚する意味を表現している。[紫光閣NO.16]の「武成殿」「綏邦懷遠」は政治方針を懐柔し、領土の安定を目指すという意味を表現している。従って、GCに属する扁額における政治知恵、知行の要素を用い、政務を執る建築群の威厳的な雰囲気に呼応していると考えられる。

GAに属する扁額の分布から見ると、主に[豊澤園NO.22]という政務を処理する建築群に集中する特徴がわかる。例えば、[豊澤園NO.22]の[豊澤園]は、万民への豊作を祈る気持ちを表現している。[溪光樹色]、[荷風蕙露]は、溪、樹、荷、蕙の自然形象を用い、国土にある美景を褒め、天下を登臨する胸襟を言い表している。また、[紫光閣NO.16]の「紫光閣」は自然界に珍奇な“紫光”で皇権を象徴的に表現し、皇権の最高地位を表現している。従って、GAに属する扁額における自然物の要素を用い、万民の農事や生活および国土の安定に関心を寄せる気持ちを表し、帝権を顕彰していると思われる。

以上、政治式典類の建築群において、建築は軸線上に並んでおり、威厳的な雰囲気を表している。扁額も威厳的な建築空間に呼応し、政事に対する考えや天下泰平の祈りを表していることがわかる。従って、扁額を通じて政治に関する知行や天下に関心を表現しており、皇帝の集中的な権威を強調しているということが特徴として考えられる(図3)。

おわりに

本研究は、清の乾隆時代における西苑園林の扁額の観点から、機能別の建築群における庭園空間の特徴を上記のように明らかにした。建築群における扁額は、それぞれの機

能により、様々な意味の構成比をもつ特徴がわかる。加えて、扁額は建築群の機能によって多様な分布様態も見えており、建築配置、空間の主題、活動の内容、動線などの庭園要素を互いに繋がり、いっそう深く関連性が見られる。扁額は意境空間を構造しており、建築群の庭園空間特徴と呼応し、強調し合うという特徴が存在することもわかる。

本研究は、西苑園林における建築の扁額と建築群を研究対象として考察した。しかし、扁額と全体的な庭園空間特徴の関係はまだ解明していないため、西苑園林における扁額と全体的な庭園空間の研究を今後の課題と考える。

謝辞

本研究の投稿する際に匿名の査読者から貴重な意見をいただきました。ここに記して深く感謝の意を表します。

補注

¹⁾「意境」の概念は周の『中国古典園林史』を参考にする。「意とは、主観的な感情や理念であり、境とは客観的な事実や景観と物である。そして意境とは、芸術創作の中におけるこれら2つの融合を示す。」

²⁾本研究の研究対象として建築群の庭園空間は、西苑園林の建築群内部の造園要素によって形成する空間であり、西苑園林の全体的な庭園空間と関連しない。

³⁾建築群の配置に関する既往研究は、劉の『中国古代建築史』、潘の『中国建築史』、李の『華夏意匠』を参考にする。

⁴⁾西苑園林における扁額の意味に関する文献資料は、李の『西苑三海扁額通解』、北海公園管理課の『北海扁額石刻』、周の『中国古典園林史』を参考にする。

⁵⁾復元した平面図は、1751年『乾隆京城全図』、1913年『北京三海図』、周の『中国古典園林史』を参考にする。

⁶⁾知行は、「知ることと行うこと。知識と行為」という概念である。

⁷⁾詩画自然は、「詩歌や絵画に描いた自然物」という概念である。

⁸⁾神話自然は、「神話などの物語に描いた自然物」という概念である。

引用文献

- 北海公園管理課(編著)(2007)北海扁額石刻。中国旅行出版社、北京。
- 谷 光燦・田代 順孝・木下 剛(2008)拙政園の扁額と対聯による意境と空間に関する研究。環境情報科学論文集 22, 429-434。
- 高 若飛・耿 欣・章 俊華(2010)中国・承德避暑山荘における亭と地形・水の空間構成に関する研究。環境情報科学論文集 24, 291-296。
- 成 光珉・孫 鏞勳・三谷 徹[他]・章 俊華(2012)扁額からみた韓国の昌徳宮後園空間の特徴について。環境情報科学論文集 26(0), 393-398。
- 李 文君(編著)(2013)西苑三海対聯扁額通解。岳麓書社、湖南。
- 劉 敦楨(編著)(1984)中国古代建築史。中国建築工業出版社、北京、8-12pp。
- 李 允和(編著)(1990)華夏意匠。明文書局、台北、140-143pp, 329-334pp。
- 梁 思成(編著)(1999)中国建築史。百花文芸出版社、北京、294-298pp。
- 潘 谷西(編著)(2004)中国建築史。中国建築工業出版社、北京、9-11pp。
- 彭 一剛(編著)(1986)中国古典園林分析。中国建築工業出版社、北京、4-52pp。
- 佐藤 昌(編著)(1991)中国造園史 上巻。日本公園緑地協会、東京、41-44pp。
- 佐藤 昌(編著)(1991)中国造園史 中巻。日本公園緑地協会、東京、20-36pp。
- 田治 一郎(1959)紫禁城西苑史抄(学位論文要旨)。造園雑誌 22(3), 1-5。
- 王 曉田・孔 明亮・三谷 徹[他]・章 俊華(2014)中国蘇州私家園林における扁額からみた建築類型別の庭園空間の特徴。ランドスケープ研究：日本造園学会誌：journal of the Japanese Institute of Landscape Architecture 77(5), 399-402。
- 張 亜平・馬 嘉・章 俊華(2016)中国清朝絵画『円明園四十景図』における庭園建築配置からみた庭園空間の特徴。ランドスケープ研究：日本造園学会誌：journal of the Japanese Institute of Landscape Architecture 79(5), 409-412。
- 周 維權(編著)(1991)中国古典園林史。明文書局、台北、9-20pp, 342-354pp。
- 章 俊華(1999)中国皇家庭園頤和園における「扁額」からみた庭園空間の特徴について。ランドスケープ研究：日本造園学会誌：journal of the Japanese Institute of Landscape Architecture 62(5), 761-76。

(2017年6月2日受付、2018年3月20日受理)